

### 北海道スタンダード研究委員会 第23回勉強会 トーチングを学んで心に火を灯そう！

#### 1. 講演会概要

□講演：「心に火を灯すセッション

～隊長の登山録～

講師)神保 拓也 様

株式会社トーチリレー 代表取締役隊長

□日時：2021年11月5日 18:00～20:30

□場所：TKP 札幌駅カンファレンスセンター

□参加者：19名(会員会友：13名、非会員：6名)



写真-1 神保講師の講演の様子

当会では、東日本大震災直後に“北海道から東北・日本を元気にする”ことをスローガンに掲げ、北海道を元気にするための様々なプログラムを提案・提言・発信する活動をしています。これまで、勉強会やWSを様々な切り口で行ってきましたが、今回は少し趣向を変えたテーマで企画しました。

今後、当会で提言したプロジェクトを実現する志を保ち、困難を恐れずに、着実に前進するために私たち自身の心に火を灯し続けることが何より重要だと考えたことが一つ目の理由です。

また組織内で日々の仕事をしていくとき、立ちほだかる課題に直面したとき、様々な人間関係など私たちの悩みは尽きません。そのようなときにどのよ

うに解決して前に進んでいけばよいのか学びたいというのが二つ目の理由です。

神保先生(以降、親しみを込めて神保さんと呼びます)ご自身の経験や、部下の悩みに向き合ってきた様々な事例をご紹介頂きながら、皆で考える講演会としました。

#### 2. 講演会

##### (1)現在の事業～トーチリレー～について

神保さんは現在、端的に言うとお悩み相談をされています。料金が低い、いわゆるエグゼクティブ層を相手にするものとは一線を画しており、学生、主婦層からお年寄りまで、お悩みを抱えている相談者に対して、相手以上に相手の気持ちになり切り、様々なヒントを与えていくというものです。

ここで重要なことは、悶々とした気持ちを持つ相談者のモチベーションが上がるように何か良いアドバイスをしてあげることではなく、相談者が時として気づいていない目標や目的と一緒に見つけることこそが「心に火を灯す」ことの出発点であり、最も大切にすべきことだということです。

悩んだとき、迷ったとき、目の前が真っ暗になったときにそっと目の前を照らしてくれる“松明(トーチ)”が手元があれば、勇気を持って前進することができると思った神保さんは、「悩んでいる人、暗闇の中にいる人に“松明”を手渡すこと」をトーチングという言葉で表現されました。

社名のトーチリレーは、ある人に手渡したトーチが、その人の心に火を灯し、その人がまた違う誰かにトーチを手渡す。このトーチをバトンにして国を越えて、時代を越えて、つないでいきたいという願いを社名に込めたということです。

## (2) ここまでの道程

神保さんは大学卒業後、三菱UFJ銀行で銀行マンとして社会人生活をスタートさせました。外資系経営コンサルタント会社を経て、柳井会長のツバのかかる距離で仕事をしてみたいと(株)ファーストリテイリング(以降「ファストリ」と略記)に就職します(最終面接官は柳井会長)。そしてファストリの中でどんどんキャリアを積み重ねていき、最終的には最年少で上席執行役員という柳井会長の右腕とも言える立場まで上り詰めてしまいます。その頃から神保さんは、自分の登るべき山は何なのかということをいろいろ考え始めたということです。

神保さんは銀行員時代から後輩の話聞き、悩み、相談にのることをしていました。ファストリ時代もどんなに忙しくても、また地位が上がってからもそれは変わりませんでした。特にファストリの上席執行役員になってからは、分単位のスケジュールの中、週に数時間は絶対仕事を入れない時間をつくり、社員の悩み相談にのっていたそうです。あるとき社内イベントで何千人もいる中、新規取組の提案が柳井会長から認められ、お礼を述べた若手社員が、神保塾(神保さんの悩み相談のこと)が無ければここまで頑張れなかったと話したそうです。それを聞き、自分の次の仕事は人の心に火を灯すことだと悟りました。それは、大学時代にボランティアで東南アジアの山間部に行ったときに貧しさや識字率の低さに衝撃を受け、「いつか世界を元気にする仕組みづくり」をしたいと、神保さん自身の原点に改めて気づいたことが大きかったとのことでした。

## (3) 質疑応答(一閃一灯)

神保さんは、講演後のやり取りでは質疑応答ではなく、参加者の悩みに対するコーチングを行っています。まさに「一閃一灯」、一つの悩み(閃え)に対して一つの答え(灯り)を与えるという素晴らしいネーミングです。この日は二名の方からの悩みを受け付けて頂きました。

一人目の方は「後輩ができ、始めて質問や悩みなどを相談されて、それに応える自分が傲慢で鬱陶しく思われていないか心配だ」というものでした。その質問者に対して神保さんは、先ず「その若さで一

番早く挙手をして質問してくれたこと、その話し方から、傲慢に思われるような、マウントをとるような人ではないと確信している」と話されました。その上で、コーチングの基本思想三つを話されました。

- ・一人ひとり異なる個性に向かい合う。
- ・自分の言葉で語る。
- ・相手以上にその悩みに感情移入して考え抜く。

二人目の方は「自分の実現したいプロジェクトに組織内外の人を巻き込もうとしているがなかなかついて来てくれない」という悩みでした。それに対して神保さんは初めに一言「努力が足りない！」とのこと。質問者は唖然としていましたが、その意図は「個々の人達へどこまで向き合っているのか？」というものでした。「一人ひとりの思いがある。例えばあなたの求めるもののハードルが高すぎて途中で挫折することを恐れているのでは」、「個々の思いを一つずつ受け止めて進めていくべき」、「あなたみたいに前向きな気持ちを持てる人はそんなにいない、誇りを持っていい」という回答に、質問者も参加者も唸りながら深く考え込んでいるようでした。

## 3. まとめ

神保さん曰く、「悩みを大きく分けると、登る山が見えていないか、登るべき山の登り方が見えていない」と言います。そして初めて会って話をする相談者の方に精一杯寄り添い、進むべき方向や進み方を一緒に考えていくのです。

当日の一閃一灯でのアドバイスはもちろん、このような考え方や姿勢を学べたことは、北海道スタンダード研究委員会のミッション達成に向けて、そして参加者が今後生きていく上での一助になるものと確信いたしました。結びに、神保さんが手渡す“松明”がやがて国境や時代を越えて広がり、人々の心に希望の火が灯された世界がどんなに素晴らしいか想像しただけでワクワクしますし、それが実現することを願って応援し続けたいと思います。

なおトーチリレーのコンセプトや悩み相談の記録はwebサイト(<https://www.torchrelay.net/>)で紹介されています。ご興味のある方はご覧下さい。